



「音楽が人生をプラスに変えてくれました」と、「音楽の力」について語る佐々木さん(68歳)。

能代七夕を盛り上げる

能代市役所前で楽器店や貸しスタジオ、音楽教室を営むササキ楽器は1972(昭和47)年に開業。1階は楽器店とスタジオ、2階には防音個室やステージのあるホールがあり、ピアノやバイオリン、ギターなどのレッスン、ウクレレやオカリナのサークル活動でにぎわう。

春にはピアノ教室に新入生の子供たちが入って、ますますにぎやかに。最近では、中高年から楽器を習い始める人が増え、大人向けの教室も好評だ。

ピアノやギター、和楽器、ウクレレ、子供用のミニピアノや木琴までさまざまな楽器、楽譜や音楽機材が並ぶ店内で目を引くのが能代七夕のコーナー。笛や太鼓のぼち、はやし方のはんてん、ポスターやDVDが祭りのムードを盛り上げる。

ふるさとの音を守る

ササキ楽器の店主、佐々木芳十三さんは、能代七夕のおはやしを

町の楽器屋さん

【ササキ楽器】能代市大町1-10 TEL.0185-52-9755

能代市で毎年8月に開かれる伝統行事「能代七夕」。
笛や太鼓のはやしに導かれ、
鯨しんちを乗せた城郭型の大型灯籠が町を練り歩く。
その伝統のおはやしを守り、若手に受け継いでいる。



地元の小・中学生に教え続けて44年。7月に入ると同市のけやき公園で七夕ばやしの無料練習会を開く。暑さや夏の夕暮れ、公園に集まり、笛や太鼓をけいこする子供たち。ここからたくさんの若きはやし方が育ち、役七夕で活躍している。「練習会で笛や太鼓の音を聞くと、『今年も七夕の季節がき

たな』とワクワクするんです」能代七夕ばやしは、灯籠を引き回すときに奏でるにぎやかな「道中ばやし」と、7日夜に鯨しんちに火を付けて米代川に流す「鯨流し」で奏でる哀調を帯びた「流しばやし」。「昔ながらの正調能代七夕ばやしは、素朴だけでも味がある。祭りのおはやしは、その地域の人々の魂に

刻まれている音。たとえふるさとを離れても忘れられない音。だから変えずに守っていかなければならないと思うんです」。伝統の七夕ばやしを後世に伝えたいと44年前、市民有志で「能代七夕正流会」を結成。七夕笛を購入したお客さまへのサービスとして無料でおはやしの練習会を開くうち、「私も習いたい」と子供たちが集まるようになった。

芸に支えられた半生

佐々木さんが七夕笛を始めたの

は8歳ごろ。笛やクラシックギターを演奏するのが好きな子供だった。「音楽が好き」という思いを理解してくれたのは優しかった母。「芸は身を助くと言うから」と、へそくりで七夕笛を買ってくれた。その笛で60年近く大切に奏でてきた。母の応援に背中を押され、好きな音楽を仕事にしようと、ピアノ調律師の勉強をして23歳で楽器店を開業。調律の他、楽器の販売・修理、音楽教室など商売の幅を広げた。「母の言葉通り、芸に身を助けられました。音楽に触れる喜び、能代伝統の音の魅力を伝え続ける。